

生ける水

聖霊による刷新のために

新しいぶどう酒は新しい革袋に

全国コムニオ奉仕会コーディネーター 小熊晴代

主の年 (Anno Domini) 二〇二二年が始まりました。「2」という数字に合わせるように、今回の降誕節では二日連続でギユツと御国の神祕を味わう機会が二度ありました。12月25日(土)は主の降誕の祭日、翌26日(日)は聖家族の祝日。一週間後の1月1日(土)は神の母聖マリアの祭日、翌2日(日)は主の公現の祭日。時間の流れの中で、御国の完成は刻一刻と近づいています。今年は1、2、1、2と着実にながらも歩みを速めるようにというメッセージとも取れます。

「あなたの言葉は私の足の灯／私の道の光」(詩編一一九・一〇五)。新年の歩みを照らす特別な御言葉を祈り求めたところ、「新しいぶどう酒は新しい革袋に」と示されました。共観福音書すべてに収録され、断食についての問答の最後にイエスがたとえとして語られるこの御言葉、四福音書の中で最古の成立と言われるマルコによる福音書は、「新しいぶどう酒は新しい革袋に入れるものだ」(2章22節、ここでも数字の2が三つ並びます)と単純明快です。成立年代が下がるマタイとルカによる福音書には、そこに独自のもう一言が加わり

ます。マタイは、「新しいぶどう酒は新しい革袋にいれるものだ。そうすれば、両方も長持ちする」(9章17節)。ウイン・ウインを重んじる元徴税人気質の表れでしょう。ルカは、「新しいぶどう酒は新しい革袋に入れなければならない。また、古いぶどう酒を飲めば、だれも新しいものを欲しがらない。『古いものの方がよい』と言うのである」(5章38節)。ここで「入れなければならない」を意味する原文のギリシア語は、「ブレイテオス」という一単語で、新約聖書の中ではここにだけ使われています。「ルカによる福音書」と『使徒言行録』で聖霊に満たされた人々を主イエスの証し人として数多く書き記したこの福音記者は、多重の意味を秘めるこの「新しいぶどう酒」に聖霊の力と喜びを見て、「なければならぬ」と強調したかったのではないでしょう。また、聖霊の力強さ、刷新の力に抵抗勢力も黙ってはいられない、あの手この手で神の国の完成を阻止しようとする現実を警告しているようにも思えます。

最初の聖霊降臨以来、新しいぶどう酒は自由に惜しみなく天の玉座におられる復活の主イエスから注ぎ出されています。新し

☆ 目 次 ☆

新しいぶどう酒は新しい革袋に (小熊晴代) ……………	1
「諸聖人と共なるオンライン全国賛美の集い」の報告 (秋元伸介) ……………	3
「ミャンマーへの献金」について (畠基幸神父) ……………	8
Mountain Moversの執り成しの意向について (高浜武則) ……………	9
2021年、ユースの活動 (澤田久美子) ……………	11
クリスマスメッセージ (カンタラメッサ枢機卿) ……………	12

発行

聖霊による刷新

全国委員会

編集委員

中村友太郎
益田 薫

購読料(送料込み・年1600円)

購読申込み・振込み先

〒141-0021
東京都品川区上大崎2丁目
10-34-2-312

聖霊による刷新全国委員会

Email: ikerumizu.livingwater@gmail.com

郵便振替 00190-1-18878

口座名 聖霊による刷新全国委員会

い革袋はいくつあってもいいのです。私が見ているいくつかをご紹介します。

教会の新しい革袋

教皇フランシスコは今日の教会のために次々と新しい革袋を提供しています。昨年12月8日、無原罪の聖マリアの祭日で

ヨセフ年は閉幕しましたが、聖ヨセフが舞台から退場されたわけではありません。二〇一四年十一月からミサで第一奉献文のみならず、第二、第四奉献文全での取り次ぎの祈りに、「神の

母おとめマリアと聖ヨセフ」とあるように、聖家族の一員として、教会の保護者として、常にイエスとマリアと共におられます。昨年3月19日、聖ヨセフの祭日から始まった『愛のよろこび』家庭年は、ローマで開催される「第10回世界家庭大会」の最終日、6月26日まで続きます。家庭をテーマにした二つの世界代表司教会議(シノドス)(二〇一四年の第3回臨時総会

「福音宣教との関連から見た家庭の司牧的問題」と二〇一五年の第14回通常総会「教会と現代世界における家庭の召命と使命」後の指針として二〇一六年3月19日に発表された使徒的勸告『愛のよろこび』についての考察を深めるよう私たちは招かれています。

二〇二三年に開催されるシノドスの第16回通常総会に向けて、教区フェーズが昨年10月から始まりました。「ともに歩む教会のため―交わり、参加、そして宣教」に私たち信徒も参加することになります。

日本語の典礼も新しくなりません。教皇庁典礼秘跡省から認可された新しい「ミサの式次第と第一、第四奉献文」等が今年12月の実施に向けて具体的な準備段階に入りました。

カリス(CHARIS)の新しい革袋

カリスの組織は、奉仕する地域上の区分として国際・大陸別・国別のコムニオ奉仕会で成り

立っていますが、一方で聖霊による洗礼を通して恵みの潮流に入った人々の多彩な表現とそれに伴うニーズに応じるため、新たに以下の8つの委員会(Commissions)が整えられました。

- 1 養成 (Formation)
- 2 共同体 (Communities)
- 3 祈りの集いグループ (Prayer Groups)
- 4 青年 (Youth)
- 5 キリスト者の一致 (Christian Unity)
- 6 執り成し (Intercession)
- 7 人間開発支援 (Human Promotion)
- 8 聖霊による洗礼 (Baptism in the Holy Spirit)

全国コムニオ奉仕会の新しい革袋

教皇庁の信徒・家庭・いのちの部署より認可を受けて二〇一九年六月に新たに歩み始めたカリスの規約に従い、日本でも全国コムニオ奉仕会の規約を制定し、二〇二〇年八月から二〇二一年十二月までを任期とする暫

定全国コムニオ奉仕会が発足しました。規約に従って今月から二〇二四年十二月まで3年の任期を務める正式な全国コムニオ奉仕会のメンバーは以下の通りです。

- | | | |
|-------|----------|----------|
| 北海道地区 | 石井志郎 | 植田迅 |
| 東北地区 | 京野啓子 | 保坂慶子 |
| 関東地区 | 小熊晴代 | 高浜武則 |
| | 中村友太郎 | 益田薫 |
| 関西地区 | 秋元伸介 | |
| | 赤波江謙一 | 神父 |
| 九州地区 | 松山純子 | 高浜昌信 |
| 沖縄地区 | マイケル・ヴィン | 神父 |
| | 父/黒澤瑤子 | (オプサーバー) |
| ユース | 澤田久美子 | 神保恵 |
| 顧問 | 畠基幸 | 神父 |

聖霊よ、わたしたちはあなたの前に立っています

Adsumus Sancte Spiritus(聖霊よ、わたしたちはあなたの前に立っています)は、セビリアの聖イシドロコ教会博士(五六〇年頃)六三六年四月四日)の作とされる祈りで、歴代の公

会議、シノドス、他の教会の集

まりで献げられてきました。第二バチカン公会議でも毎回のセツションの始まりに献げられ、今回のシノドスでも教会全体がこの祈りを通して恵みの共同体、恵みの民に変えられるよう招か

れています。

聖霊よ、わたしたちはあなたの前に立ち、あなたのみ名によって集います。わたしたちのもつて来て、とどまり、一人ひとりの心にお住まいください。...

「諸聖人と共にオンライン全国賛美の集い」開かれる

全国コムニオ奉仕会 秋元伸介

去る10月31日(日曜日)の午後2時より4時まで、「諸聖人と共にオンライン全国賛美の集い」が開催され、百名を超える(オンラインで初めて)方が各地から参加してくださいました。

開始から1時間、賛美、礼拝を主にお捧げし、主の栄光の中に立ち、その後、マツケイ神父様による講話「聖なる者になるには」というテーマでお話をさせていただきました。以下にその時の講話の内容を引用し、紹介させていただきます。

フランシス・マツケイ神父様の講話「聖性への招き」

イエスが教えられた通りに生きる

ペトロの第一の手紙では、「あなたがたを召された聖なる方に倣って、あなたがた自身もあらゆる行いにおいて聖なる者となりなさい。聖書に、『わたしは、聖なる者である。あなたも聖なる者となりなさい』と書かれています」(一ペトロ1・15-16)。イエスは、聖性について思い巡らすように招いておられます。

さて、「聖性」とは何でしょうか? それは、「神様のようになること」です。神様は、人

アーメン、私たち一人一人が新しいぶどう酒である聖霊に日々満たされ、新しい革袋として変えられていきますように。

〔聖書の引用は全て聖書協会共同訳より〕

間になられましたから、聖性は、「イエスのようになること」です。どのように「神様のようになれるのか?」「イエスのようになること」が出来るのでしょうか? それは、イエスが言われた通りに生きることによってです。イエスは、こう言われました。「あなたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る」(ヨハネ14・15)。ユダヤ人であるイエスは「掟」という言葉を使われしました。しかし、「愛」を命令することができるでしょうか?

す。これをして下さい。私は、あなたを自由に愛したいのです」と。イエスの掟は、イエスの平和と喜びと幸せを望む人にとつて、どのように生きれば良いかという解き明かします。イエスの掟は、人生の取扱説明書なのです。

では、イエスの掟とは、何でしょうか? 「あなたは、心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。また、隣人を自分のように愛しなさい」(マタイ22・37-39)とあります。

イエスの掟は、いくつあるのでしょうか? 二つのように見えますが、実際は三つです。

それは、「神様を愛すること」、「人々を愛すること」、「自分を愛すること」です。「自分を愛しているように隣人を」と言われています。イエスの教えは、80-90%位「どのようにして、神と人々と自分自身が一つになることができるのか」ということについてでした。また、その三つの関わりの中で起る

分裂や不調和に対して、「どのように対処して打ち勝つか」ということについてでした。ですから、その三つの掟を一つずつ見てみましょう。

〔3番目の掟〕

3番目の掟は、「自分自身を愛すること」についてです。どのように自分自身を愛したらよいのでしょうか？ 7つの方法について、お話ししたいと思います。

1. 悔い改め…まず、イエスは、自分を愛するためには「悔い改めなければならぬ」と言われています。一体、何が神と人々と自分自身を愛することを妨げているのでしょうか？ 何が神ご自身を私に完全に与える事を邪魔しているのでしょうか？ 「回心」とは、その妨げている部分を探して、神様に明け渡すことです。もちろん、「心の傷」も障害となりますから、私たちには癒しが必要です。しかし、それを自分だけで何も解決することは出来ません。神様の助け

が必要となります。

2. 罪への傾きと戦う…自分を愛するためには、「自分自身の中にある罪への傾きと戦う」ことが必要です。罪とは、自分の中にある自己中心性への傾きです。私たちは、その罪への傾きに慣れていきますから、それが私たちの本当の自分だと思ってしまうます。私たちの本当の自分は、一番深い所（潜在意識も含む）にあります。私たちの一番深い望みは、神様の望みなのです。その罪への傾きに毒されている自分は、本来の自分ではなく間違った自分なのです。パウロが語っているように、「もし、わたしが望まないことをしているとすれば、それをしているのは、もはや私ではなく、わたしの内に住んでいる罪なのです」（ローマ7・20）。イエスは、自分を愛するためには、「自分の偽の部分捨てなければならぬ」と、言われました。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」（マタ

イ16・24）。ですから、私たちは、偽の自分を捨てながら、聖人たちのように毎日体験している十字架を受け入れて、それを神様に捧げます。自分の罪の贖いや全ての人の罪の贖いとして。**3. 神の目で見える**…自分を愛するためには、神様が私たちを見られている目で自分自身を見ることが出来るようにと、その恵みを頼まなければなりません。それは、自分の弱点の克服のためだけでなく、自分に与えられた賜物を認めるためです。私たちは、神様にとつて尊い子供達なのです。しかし、悪い者（悪魔）は、「あなたは悪い」「取るに足りない者」と囁き、信じ込ませたいのです。**4. 誘惑に抵抗する**…自分を愛するためには、私たちは誘惑に抵抗しなければなりません。誘惑の種類は、二つあります。それは、「罪を犯す誘惑」と「悪くないことをする誘惑」です。私たちは、罪を犯す誘惑に抵抗する必要があると。例えば、傲慢・偽善・虚飾・閉じた心（

恐れや偏見等によって）・富への執着・肉欲・恨み・復讐心などです。悪くないと思うことをするための誘惑にも抵抗しなければなりません。例えば、「今日は、忙しいから祈る時間がない」等です。悪い者は、私達にとつて一番良いことを拒否して、2番目に良い事を選んで欲しいのです。**5. 柔和や謙遜の心を祈る**…自分を愛するためには、私たちはイエスのように柔和と謙遜を身につけなければなりません。イエスは、「心の貧しい人々は幸いです。天の国はその人たちのものである。柔和な人々は幸いです。憐れみ深い人々は幸いです。その人たちは地を受け継ぐ。憐れみ深い人々は幸いです。その人たちは憐れみを受ける。心の清い人々は幸いです。その人たちは神を見る」（マタイ5・3,5,7,8）。「わたしに学びなさい。わたしは、柔和で謙遜な者だから」（マタイ11・29）。「自分を低くして、子供のようになる人が、天の国でいちばん偉いのだ」（マタイ

18・4)とされました。

6. 神の祝福を祈る…自分を愛するためには、神様のすべての恵みを頂けるようにと、祈らなければなりません。イエスは、私たちにたくさんの恵みを与えたいのです。自分自身のため、また、他の人々のために。イエスは、それらを私たちに与えることができるように、その恵みを求めて祈って欲しいのです。イエスが、私たちに与えたいと望んでおられる「全ての恵みを求める心」の為に祈らなければなりません。私たちは、「神様の恵みを望む飢え渴く心」を求めて祈らなければなりません。イエスは、「渴いている人は、誰でも、わたしの所に来て、飲みなさい」(ヨハネ7・37)と言われました。また、マリア様は、「神は、飢えた人を善いもので満たし、富める者を空腹のまま追い返されます」(ルカ1・53)と言われました。

7. 聞いて従う…自分を愛するためには、聖霊が私たちに話されていることに耳を傾けなければなりません。

ばなりません。聖霊の促しに従うことは、聖性の泉だからです。「今日こそ、あなたがたは、主の声を聴くがよい。心を頑なにしてはならない」(詩編95・7-8)。イエスが言われたように、「神に属している人は、神の声に聴き従う」(ヨハネ8・47)のです。神様の命が、私たちを通して人々の中に流れるようになれば、神様のようになります。

〔2番目の掟〕

2番目の掟は、他の人々を愛することについてです。イエスは、人々をどのように愛すればよいか3つの方法で教えて下さいました。「隣人を自分のように愛しなさい」(マタイ10・39)。「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」(ルカ6・31)。「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」(ヨハネ15・12)。

人々を愛する為には、神様の目をもつて人々を見なければなりません。

りません。神様は、将来完成する建物(成長した靈魂)を見られますが、私たちは、ただ人々の「今の」土台と工事中の建物を見てしまいます。全ての人は、神様の子供達です。神様は、一人一人の子どもたちを愛おしく愛しておられます。もし、誰かを愛しているならば、その人が愛している人々に対して愛しく思うことは、自然なことかもしれません。神様を愛しているならば、愛します。もし、神様を愛しているならば、私達は小さな者・貧しい者・病に苦しんでいる者・社会が排斥している者を愛します。具体的に、どのように他の人々を愛したら良いのでしょうか? イエスは、様々な方法で教えてくださいましたが、6つの方法をお話ししたいと思います。

1. 救す…まず、人々を愛しているならば、彼らが私たちを傷つけた時には彼らを救します。神様を愛している人は、神様の目でその人を見ます。その人が

私を傷つけた時、その人は傷がある故に不自由でした。その人は、その傷と弱さで縛られていました。ですから、実際に私を傷つけた人は、その人自身ではなくて、その人の傷と罪深さが私を傷つけたと考えることが出来ます。聖パウロの言葉を引用すれば、「もし、わたしが望まないことをしているとすれば、それをしているのは、もはやわたしではなく、わたしの内に住んでいる罪なのです」(ローマ7・20)。ですから、私を傷つけた人は、その人自身ではなく、その人の中にある罪なのです。私が受けた傷は、その人からの「助けてください」という心からの叫び声でした。神様は、その傷を許されました。なぜ、神様は許されたのでしょうか? それは、私たちがその人のために祈るようになります。その人は、私の祈りを通してしか救われられない可能性があるからです。私たちに対立している人に関して、イエスは次のように言われました。「敵を愛し、あなたがたを憎む

者に親切にしなさい。悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい」(ルカ6・27～28)。聖パウロは、これも付け加えました。「あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渴いていたら飲ませよ。悪に負けることなく、善をもつて悪に勝ちなさい」(ローマ12・20～21)。

2. 裁かない…もし、人々を愛しているならば、誰をも裁きません。なぜなら、その人の中で何が起こっているか分からないからです。むしろ、私たちはその人に対して「同情する心」の恩恵を祈り求めます。イエスが言われたように「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。人を罪人だと決めるな。そうすれば、あなたがたも罪人だと決められることがない。赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦される。与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる」(ルカ6・36～38)。

3. 苦しんでいる者を助ける…人々を愛しているならば、苦しんでいる人を見ると私達は出来る限り助けるでしょう。現世においての苦しみは辛いですが、煉獄にいる兄妹姉妹の苦しみはもっと酷いものです。ですから人々を愛しているならば、煉獄にいる靈魂たちのために毎日祈ります。

4. 人々が地獄に行かないように祈る…人々を愛しているならば、私たちは誰一人地獄に行つて欲しくないはずで、86年前にイエスは、私たちに人々を地獄に行くことから救うための祈りを教えられました。それは、「神のいつくしみのチャプレット」と呼ばれています。死にかけている状態にある人々のために、その祈りを唱えれば、イエスは彼らに回心の恩恵と平穏な死の恩恵を与えることを約束されました。その時まで彼らが常習的な罪を犯し、赦しを願うことができない状態であっても、彼らが自由に神を選ぶか神を拒むかの恩恵を得ることができます。私たちは、世界中で死にかけている人のためにその5分の祈りを唱えることができます。もし、神に赦しを願うことができない状態で死にかけている人々のためにチャプレットを3回唱えれば、私たちはイエスが地獄に行くはずの3人を救うことを助けることになり、何人かは、その恩恵を受け入れることを拒む可能性が考えられます。しかし、誰も同意無く、意に反して天国に入ることはありません。主は、誰がその恩恵を拒むか前もって知っておられますから、拒む人にその恩恵を授けるといふことはありません。ですから、人々を愛することで、その祈りを毎日3回唱えるならば、1年で地獄に行くはずの千人以上の人々を助けることができます。

5. 天使たちと聖人たちの助けを頼む…人々を愛しているならば、私たちの天国にいる友人たちや兄弟たちに助けを頼むでしょう。天国にいる天使たちと聖人たちに。彼らは、私たちが助

けたいので、私たちの祈りを待ち望んでいます。特に、全ての恩恵の仲介者であるマリア様が、彼女の汚れなき御心に奉獻すれば、私たちのお母さんとして自由に働くことができます。私たちを通して。特に、ロザリオの祈りを通して。ロザリオは、とても重要な祈りです。

6. 他者のために賜物を使う…人々を愛しているならば、人々の為に私たちの全ての恵みと賜物を使うでしょう。私たちの賜物・才能・能力は、人々のためです。私たちが他の人にしたことは、イエスにもしたことになるでしょう。イエスは、「これらのわたしの兄弟、しかも最も小さな者の一人にしたのは、わたしにしたのである」(マタイ25・40)と言われました。

〔1番目の掟〕

第一の掟は、「神様を愛すること」についてです。聖ヨハネは、私たちが「愛が何であるか」を説明しています。彼は、「神がまず私たちを愛してください

「わたしたちが命を受けるように、神は独り子を世に遣わされた。ここに神の愛がわたしたちに現されたのです。わたしたちが愛するのは、神がまず、わたしたちを愛してくださったからです」(一ヨハネ4・9、19)と。

もし、私たちが誰かを愛しているならば、私たちはその人と一緒に時間を過ごしたいと望みます。もし、誰かを愛しているならば、その人と望みます。神様は、私たちに「それらのことを望む」と言われました。つまり、神は、私たちと一緒に住み、親しく関わり、私たちにご自身を完全に与えること望まれます。そのために、

神様は、私達を創造されました。神様は、私たちが神様の愛を受け取ることが出来るように、私たちに心を開いて欲しいのです。もし、私たちが心を開くならば、神様は聖霊で私達を満たすこ

とができます。そうすることで、だんだん神様のようになります。神様を愛することは、神様の愛に応えることです。祈りで神様と交わることによって。特に、

聖体礼拝の祈りを通して。また、神様を愛することは、どんなことが起こっても神様を信頼することです。神様を愛することは、聞いて従うことです。そして、カテキズムにも書いてあるように、聞いて従うことは、「主人が何をしているかを知らない僕の状態から、キリストの友の状態に移させます」(カテキズム一九七二)。神様は、子供たちを望まれます。神様は、友人たちを望まれます。神様は、配偶者たちを望まれます。もし、神様を愛しているならば、私達も神様が希望されていることを望むはずで

私達は、どのように神様の愛に応えることができるのでしょうか？ 私たちが応える方法は、各自の使命や賜物によって違います。それでは、神はどのようにに私達を「聖なる者」と

なるように招かれているのでしょうか？

福者カルロ・アクティス

皆さんは、現代の聖人について聞いたことがあるかもしれません。福者カルロ・アクティスです。彼は、二〇〇六年に15歳で亡くなりました。教皇様は、

二〇二〇年に彼を列福しました。カルロは、神様からたくさんの恵みを受けました。彼が4歳の時に祖母が亡くなりましたが、夢の中で現れて祈りを頼みました。彼の両親が信仰を實踐していなかった時、彼は初聖体に与ることを頼みました。彼は、幼い頃から深い信仰心を持っていました。ご聖体の秘跡への愛や聖母マリアへの崇敬が深い子供でした。毎日、彼はミサに与った後にご聖体礼拝を行い、ロザリオを唱えました。学校では、困難な状況にいる仲間を擁護しました。ホームレスを支援するボランティア活動に参加して、初聖体や堅信を受ける子どもた

ちにカテキズムを教えました。

コンピュータやインターネットの専門知識に優れていたため、彼はご聖体の奇跡に関するウェブサイトを作成しました。また、教会が認めている「聖母マリアのご出現」のウェブサイトも作成しました。彼が白血病を発症した時、自分の苦しみを教皇様と教会のために捧げました。亡くなった時には、希望していたアッシジに葬られました。後に、彼の遺体が腐敗していない状態であることがわかったので、聖ベルナデッタのようにカルロの遺体は硝子の棺の中に収められています。彼の目標は、「聖性」でした。彼は、「聖なる者になりたい」と思う人のために8つのリストを作成しました。

1. 心から聖人になることを望み、もし自分がまだ聖人になることを望んでいないなら、あなたはそれを強く主に求めること。
2. 毎日、ミサ聖祭に与り、聖体拝領をしようとすること。
3. 毎日、ロザリオを唱えること。

- とを忘れないこと。
4. 毎日、聖書の一節を読むこと。
5. 出来るだけイエズスが本当におられる聖櫃の前で聖体礼拝の時間を作ること。すると、あなたの聖性のレベルが驚くほど高まるでしょう。
6. 出来るだけ、毎週赦しの秘

「ミャンマーへの献金について」

御受難会司祭 畠 基幸神父

クリスマスと新年おめでとう
ございます。

ミャンマーミッションが中止になったことは、前回お知らせしました。皆様に昨年の後半から今年にかけてミッションへの献金をお願いしたところ、百日共同祈願の「関西大会」名義の口座に振り込んでくださった金額は、11月時点で一四〇万円になりました。これらの献金は、ミッションが不可能になったためローマに送ると予告しましたところ、その後、東京教区のミャンマー委員会担当司祭レオ

- 跡を受け、小罪をも告白すること。
7. 常に主と聖母に「聖なる者となる」決意を捧げ信仰の花が開くように、他者を助けること。
8. 絶えず守護の天使に助けを求めること。
- 聖性は、「神が私たちが自由

・シニューマカ神父が書いた東京教区ニュースの記事（11月号）を紹介され、直接問い合わせると、国軍によって攻撃された地域の避難民や負傷者に療養施設や難民シェルターを通して物資や支援金を送り届ける独自のルートがあることがわかりました。これは聖霊の促しと信じ、皆様の献金をローマ経由にするよりも、特に困難な状況下にある生活困窮者や緊急医療現場にすぐに使ってもらえる支援金として東京教区ミャンマー・デーへ献金することにしました。なお、

に愛せるように心を開くこと」です。聖性は、「神の愛に応えること」です。聖性は、「神が私たちを通して人々を愛させること」です。

この講話の後、再び主に賛美をお捧げし、私たちを「聖なる者」にしてくださいとされる聖霊の力を

これを決めるにあたっては、全国コムニオ奉仕会のコアチームに相談しました。毎年11月の第三日曜日がミャンマー・デーと決められていることを知り、東京大司教区の菊地功大司教様に連絡してミャンマー特別献金に加えていただけるとお願いしました。「聖霊による刷新全国コムニオ奉仕会」の名前で献金し、領収書もいただきました。同時に聖霊刷新の newName や来年50周年を迎える聖霊刷新の全国大会の開催予定やとりなしの祈りの輪である百日共同祈願の活動も紹介させていただきました。それにしても、私たちが祈って来たことに関連して、12月23

祈り求め、感謝の内に終わりました。日々の信仰生活にとっての大変大きな力と励ましとなる講話をしてくださったマッケイ神父様に感謝申しあげます。そして私たちをこの賛美の集いへと導かれた主に感謝と賛美をお捧げします。

日ヤンゴンでは一つの出来事が起こりました。枢機卿が主催するクリスマスチャリティの催しにミン・アウン・フライン総司令官が訪問し、対談したことです。神さまは、ミン・アウン・フライン総司令官に回心の機会を与えられたのです。ところが、総司令官は無心な幼子ではなく、また「何をしているかわからない」人ではなく、政治的な利用の機会として、クリスマスケーキを枢機卿と二人でカットした様子を写真入りで報道させたのでした。チャリティーに一一〇〇〇ドル（二二〇万円）を寄付し、この日、政党選挙による民主化への選挙日程を2年後

に行うことを発表したのでした。枢機卿への非難がキリスト教会から、またカトリック教会内部分から起っています。まさにカオス（混沌）です。クリスマスオスを祝うこともできない、カレン州、チン州、カヤ州、カチン州

Mountain Movers の執り成しの祈りの意向について

全国コムニオ奉仕会委員 高浜武則

現在、アジア・オセアニア地域の国々が互いに祈り合う、聖

霊刷新の組織 (Mountain Movers) があり、日本の聖霊刷新も参加しています。最初は、CHRIS (カリス) の前身である ICCRS (イクルス) のアジア・オセアニア地域の低位組織 ISAO (イサオ) の委員であった畠神父だけが関わっていましたが、二〇一七年にシンガポールで開催された Mountain Movers の集会に FBB の大西さんと小松さん、それに四谷祈りの集いの私が派遣されたことがきっかけとなって日本でも少しづつ Mountain Movers

の多数派のキリスト者やカトリック信者がジャングルに逃げまどい、国軍と戦う少数民族の武装勢力と無関係な村々の男性たちが次々と殺害される現実の日々があるのに、殺害者と手を組むとはと非難されています。そ

の働きが知られるようになってきました。

当時私が派遣されたのは、四谷祈りの集いで毎月更新し、皆で毎日祈るようにしていた執り成しの祈りの意向の作成に私もコアグループの一員として関わっていたということがありますが、そもそもそのきっかけは、ローマでのカリスマ刷新の金祝の直後にアジジに行ったとき、聖フランシスコ誕生の場所に造られた小さな聖堂内で、シンガポールから来た ISAO の事務局長ジェラルドさんとそのグループに出会ったことです。ベンチ椅子が二つしかないそ

して、国民の大多数の仏教者たちからカトリック教会への排撃と攻撃が始まるのではないかと私は不安になり眠れなくなりました。聖母よ、あなたの子らをお守りください。

の小さな聖堂で私が一人で黙想しようと思っていたら、突如そのグループが「やっぱりここで祈ろう」と言いながら入って来て、私がいるにもかかわらず、英語で祈り始めたのです。途中から異言でも祈り始め、私は内心、「公の場所で、異言で祈るなんて。たまたま私が聖霊刷新関係者だからいいもの」と思っていたら、今度はジェラルドさんが預言を始め、途中から私に対しても預言をし始めたのです。私に目配せしながら、「主は今、私たちと共にいるこの兄弟をも祝福しておられます・・」と。

主よ、彼らをおゆるしく下さい。彼らは何をしているかを知らないのです。主よ、ミヤンマー国民に、速やかに助けの手を与えてください。マラナタ。

この後、一緒に聖堂を出て少し話をして記念撮影もしたのですが、その話の中でこの一行が畠神父を知っていることが分かりました。結局、その半年後の11月下旬から12月上旬にかけて行われたシンガポールでの集会で、ジェラルドさん夫妻や他の兄弟姉妹と再会することになります。

二〇一八年にドバイで開催された ISAO の大会でも Mountain Movers の集会があり、小熊さんと澤田さんが参加し、日本における Mountain Movers の輪が少しずつ広がっています。Mountain Movers とは「祈りによって山をも動かす人たち」という意味ですが、関係者は毎日、その執り成しの祈りの

意向のために祈ることが求められていきます。ただ、自分だけで祈るのではなく、自分が関係している祈りの集い等でも共に祈ってもらうことが推奨されています。そのため、日本で Mountain Movers のコーディネーター役を引き受けている私は、自分が管理している「カトリック聖霊による刷新メーリングリスト」で二カ月に一度、Mountain Movers の執り成しの祈りの意向をお知らせするようにしています。

二〇一八年の夏に東京で関東大会が開催されたとき、預言的執り成しを教えてくださいました。当時、Mountain Movers 全体のコーディネーターをしておられたアン・マリー・ゲートンビーさんです。私が彼女に出会ったのはシンガポールでの執り成し集会でした。その集会で彼女は、シリル・ジョンさんと共に預言的執り成しを教えてくださいました。

現在、アジア・オセアニア地域の各国で作成している執り成

しの祈りの意向は二カ月ごとに更新されています。今年1月と2月の日本の意向は、全国コムニオ奉仕会作成の五つの執り成しの祈りの意向をベースに、以下のとおり、最近の状況を反映して具体的に作成してあります。

1 現在のパンデミックの状況がどうなっているか、日本でも、より深い回心と神への信頼がキリスト者にもまだキリストを知らない人々にも起こりますように。

2 私たち日本のキリスト者が天の父の愛をもって外国からの移住者を、特に不法滞在と不法就労を理由に入国管理局に収監され不当な扱いを受けることのある人々を、愛し支えますように。

3 二〇二二年から二〇二四年までの任期で正式に発足したばかりの新全国コムニオ奉仕会が聖霊によって強められていきますように。

(参考) 日本の全国コムニオ奉仕会作成の執り成しの祈りの意向

1 教皇と日本の聖職者(司教、司祭等)のために

2 司法・行政・立法のために(正義と公正が行われるように)

3 天が日本を訪れ、日本に神の愛が注がれますように(日本の祝福)

4 私たち日本のクリスチャンが天の父の愛をもって愛するようになり(クリスチャンの成長)

5 弱い立場に追いやられている人々のために

祈りの意向をお知らせしている「カトリック聖霊による刷新メーリングリスト(ML)」は、もともと、四谷祈りの集いMLとCCR通信MLとが合併してできたものですが、設立までの経緯を簡単にご紹介しておきます。

地域限定版の四谷祈りの集いMLは、四谷祈りの集いのコアグループの依頼で二〇一四年四

月十一日に私が立ち上げました。その後、同年十月七日に、聖霊による刷新関西委員会(島神父様や都藤さん)の協力を得て立ち上げたのが全国版のCCR通信MLです。この二つのMLを二〇一九年十一月一日に合併して誕生したのがカトリック聖霊による刷新MLで、現在のメンバーはおよそ二〇〇名です。聖職者・修道者も十名くらい参加しておられます。私はパソコンメールで参加していますが、携帯メールで参加しているメンバーも多いようです。現在は二〇〇名までの料金プランを利用していますが、メンバーが二〇〇名を超えた段階で、五〇〇名まで参加できる料金プランに移行することになります。

この無料のMLに参加を希望される方は、メールアドレス、氏名、居住地の都道府県名、教会名・祈りの集い名(所属している場合のみ)を明記の上、次のアドレスの高浜あてにメールで申し込んでください。

charispress3@gmail.com

二〇二二年、ユースの歩み

全国コムニオ奉仕会ユース・コーデイネーター 澤田久美子

カトリック聖霊による刷新の首都圏在住の青年有志が月に一度集まるようになってから3年

が経ちました。ちょうど一年前の本誌で、ユースのためのクリスマスミサを聖マリア修道女会で初開催したことを報告しましたが、昨年はコロナ禍にあって聖マリア修道院での活動も困難となってしまうました。そこで、私の自宅を開放し、月例会の会場としてユースの活動を支えてまいりましたが、昨年の12月26日、聖家族の祝日に、パウロ・ヤノチンスキー神父様司式によるミサとクリスマス会を行うことができました。

今回は初めて参加者が3人（カトリック信者、国籍はカメルーン、日本、米国）となり、ユースコアメンバー（台湾、日本、南アフリカ共和国）やシニアのサポーターの方々と有意義な交流ができました。来年に向けて、

一緒にいろいろな活動ができることを祈っています。

皆様、いつもユースのために祈ってください。心から感謝いたします。これからもこの小さなユースの芽が大きく育っていくように、引き続きお祈りをお願いいたします。主のお恵みが皆様にも豊かに注がれますように、お祈りしています。



ユースの集いは毎月第4日曜日に実施していますので、ご興味のある方は、kterejia@aol.com 澤田まで、お問い合わせください。

クリスマス主催 HERE I AM ユースクリスマスコンサート

二〇二二年12月18日（土）午後10時（ローマ時間）、カリス主催による第一回ユースクリスマスコンサートがオンラインで開催されました。世界各地の青年グループがリレー形式で主に献げる賛美を分かち合うこのイベントは、来年以降も HERE I AM（私はここにいます）という名で毎年待降節に行われる恒例行事となるようです。今回は、カリスのユースコーディネーター、ジュリア・ランカスが開催の挨拶をした後、フランス、ブラジル、アルゼンチン、インドネシア、ウガンダから6

つの青年グループが賛美の歌や踊りをリードしました。2時間近くに渡る賛美の中間で、カリスの補佐司祭であるラニエロ・カンタラメツサ枢機卿が英語で青年たちにメッセージを送りました。最後はカリスのコーデイネーター、ピノ・スカフーロ氏の感謝の言葉で締めくくられました。

日本時間では12月19日（日曜）の早朝6時から8時の時間帯だったので、ライブ配信ではなく後日再生録画で参加した日本のユース二人の分かち合いを以下にご紹介します。

〔神保恵さんより〕

私は今回の催しにはオンラインで参加し、御言葉が心に浮かびました。「主を賛美するために民は創造された」（新共同訳詩編一〇二・18〜19）です。私たちは主の民であり、賛美の民なのです！ 賛美は私たちの生きる目的です。神によって創造された全ての民は主を賛美するべきなのです。今回、各国のユ

イスがそれぞれの母国語で唯一の主に向かって賛美することは神の御心に叶って美しい事だと改めて感動しました。私たちは今、大変な時代を生きています。平和がなく、不安に駆られ、不平不満を口にしそうになります。こんな時こそ敢えて、心を主に上げて、この状況を主に賛美すべきなのです。カンタラメッサ枢機卿は以前、罪の反対は賛美だと教えてくださいました。不平不満は（神様に対する）罪なのです。

〔簡琦恩さんより〕
このコンサート、朝起きられなくて参加できなかったことを残念だと思いました。まさか録画されてもう一度 YouTube で見られるとは思わなかったのです。観ることができ本当によかったです。皆が世界中に、それぞれの国で、それぞれの言葉で、主を賛美していると、心が燃えます。たとえ言葉がわからなくても、最初から最後まで胸の中に炎が灯されたように熱くてたまらなかつたです。

ラニエロ・カンタラメッサ枢機卿様が話していた歌もとても好きです。「Here I am, Lord. I will go, Lord, if you lead me. I will hold your people in my heart. (主よ、私はここにおります。主よ、あなたが私を導いてくだされば、私は行きます。私はあなたの民を自分の心に刻みます。)」そうです。いつもいつも神様の望みを耳にしていきましたが、私の一人の力では何もできないです。神様が私を導けば、何でもできるのです。こ

こで賛美している皆さんもそんな感じがしました。
たとえ物理的に一緒にいるのは難しくても、ライブ配信だったり録画だったりして、一緒に神様に賛美することができるようになります。
このコンサートを開催してくださったカリスに「ありがとうございます。参加出来てよかったです。来年の時間を先に開けておこうかな。」

救い主に心を開こう by CHARIS International

2021年12月6日 ラニエロ・カンタラメッサ神父の言葉

親愛なる兄弟姉妹の皆様へ

聖なるクリスマスが近づいてきました。私たちの心に聖霊の居場所を空け、神の御子のために温かく愛に満ちた家を用意していただきましょう。

私たちの真の定めは、愛によって変容することです。イエスは私たちの人生の中心です。イエスに私たちを変容していただきましょう。

クリスマスの喜びは特別な喜びですが、それは一日だけのものではなく、キリスト者の全生涯に関わるものです。神が生まれたところには、「愛と喜びと平和」があります。これらは、パンデミックの続発に打ちひしがれる人類がこれまで以上に必要としている御霊の実です。聖霊に願い、神は私たちの間に宿られるために人となられたという意識を与えていただきましょう。私たちは一人ではありません。神はここにおられます。私の中に、あなたの中に、そして世界中のすべての兄弟姉妹の中に、神はおられるのです。

私たちの心を救い主に開き、周りの人々に福音を伝えましょう。皆の声を合わせて叫びましょう。「主イエスよ、来てください！」と。

皆さん一人ひとりの平穏なクリスマスが、最も困窮している人々に愛の手を差し伸べる機会に変えられますように。貧しい人々の中で貧しい機関として皆さんの助けを必要としているカリスもお忘れなく。

経済的支援が可能であれば、ぜひご協力をお願いします。

R. Raniero Card. Cantalamessa, O.F.M. Cap.

Card. Raniero CANTALAMESSA, O.F.M. Cap.